

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075000143		
法人名	社会福祉法人 福祉松快園		
事業所名	松快園 グループホーム やすらぎの里		
所在地	福岡県遠賀郡水巻町吉田南2丁目9-1 (電話) 093-201-4822		
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 1 日	評価結果確定日	平成 25 年 11 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の個々を尊重し、本人の希望や願いを実現できるよう支援している。また、利用者の得意とする事やできることを生活のなかに取り入れ、生き生きとした生活が出来るよう支援している。やすらぎの里はケアハウスの10階にあり、リビング・掘りごたつの有る和室から広いガラス張りの窓を通して視界が広がり、まるで自然の懷に包まれているかのようである。また、桜並木や自然を取り入れた遊歩道・数多くの植栽・野鳥など四季の移り変わりを肌で感じながらの散歩やゆったりとした時間の流れを感じて過ごせるせいかつ場であり、まさしく「やすらぎの里」と言える。また、福祉のあらゆる事業所を有する複合施設であり、他事業所との交流も頻回に行われており緊急事態発生時の応援体制も完備されている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 9 月 25 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

母体法人が、地域における福祉・介護の中核拠点であり、法人運営の各施設との連携や老人介護のノウハウの蓄積には特記すべき点がある。特に隣接施設内には自家発電能力を有しており、緊急時に対応が可能である。事業所のスタッフは他業種からの転職者も多く、福祉・介護に対する視点も多面性があり介護の質の向上に多角的検討がなされている。管理者・職員のモチベーションも高く、常に改善志向である。事業所内は利用者主体の運営を目指しており、その残存能力をうまく引き出している。地域やボランティアとの交流も活発で、協働でイベントなどに取り組んでいる。今後も、地域に根差した活動が期待できるグループホームである。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に地域密着という点を熟慮し事業所独自の理念をつくりフロアに掲示し常に目に付くようにして周知を図り実践につなげるようにしている。	理念に地域密着の視点を有し、勉強会、職種会議で理念を深める取り組みを行っている。介護現場においても、その都度管理者が職員に理念の具現化について指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体法人が町内会に加入しており地域の盆踊りなどの行事に参加したり定期的に地域のボランティアによる話し相手や健康体操などを行い交流を行っている。	地域の盆踊りのやぐらを組む作業をはじめ、様々な地域活動へ積極的に参加しており、地域の福祉をけん引する中核機能を果たしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて日々のケアから感じている認知症に対する思いを伝える機会があり、今後はテーマを決めて定期的の実施できるよう検討したい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し事業所からは活動状況を報告し意見交換を行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、積極的な意見交換が行われている。運営推進会議の委員の要望で、より深い福祉や介護の知識を学ぶため、委員向けの勉強会の開催が提案され実施している。委員はその知識を地域に持ち帰り、地域住民に対して啓発活動を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政の担当者に参加して頂き事業所の現状を伝え協力関係は築けている。	福岡県高齢者グループホーム協議会に加盟し、2ヶ月に一度、行政との意見交換を行っている。事業所においても、毎月定期的に行政担当課を訪問し、意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来、身体拘束ゼロの取り組みを行っており夜間の施錠以外は施錠をしていない。今後も身体拘束を行わないために職種会議や勉強会などで理解を深めて安全で自由に過ごして頂けるようにしていく。	身体拘束に関するマニュアルがあり、夜間を除き、居室・玄関は施錠をしていない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付添いを行っている。内部・外部研修を実施しているが、外部研修は一部の職員にとどまっており、資料等も保管されていない。	一部の職員が受講した研修については、伝達研修を行うなど全職員が学ぶ機会を設けていただき、併せて教材や資料、報告書等の記録を保管することを期待したい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会で理解を深め、虐待を行わないという方針を徹底している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会や研修などで制度について学ぶ機会を持っている。	権利擁護に関する制度について、契約時に説明を行っている。内部・外部研修を実施しているが、外部研修は一部の職員にとどまっており、資料等も保管されていない。	外部研修での権利擁護に関する最新の知識と情報を、職員全員が共通の認識として現場に活かせるよう資料等を保管し、伝達研修を行うなどの工夫をしていただきたい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時は重要事項説明書に基づき十分な説明を行い不安や疑問点を尋ね、理解・納得を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、総会時にご家族の意見や要望などを話す機会がある。普段の面会時にも要望や意見を伺っている。また相談箱の設置や相談窓口の明示により意見を反映できる機会を設けている。	利用者・家族は、運営推進会議のほか、日常的に管理者・職員へ話しやすい関係を構築している。家族から、家事作業を行う際に利用者に声かけをしてほしいとの要望があり、リハビリを兼ねて作業を行ってもらい、残存能力の保持に役立っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職種会議などで職員の意見や提案を聞く機会を設けており、日々の業務の中でも職員に声かけをして意見交換を行い運営に反映させている。	管理者は頻繁に職員への声かけを行っており、両者間での意思疎通を図り、職員の意見等を取り入れるようにしている。敬老の日に利用者に手渡す感謝状に心がこもるように写真を添付し表紙は手作りにする等の提案を尊重して実施している。その他、利用者の足置きも製作している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の勤務状況を把握し、やりがいや向上心を持てるように環境の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員採用において性別や年齢による排除は一切ない。また、法人内に託児所も有り子育てをしながらでも能力を十分発揮して働ける環境も整えている。</p>	<p>職員の年齢構成は20代～50代半ば過ぎで、男女構成は男性2名、女性6名、定年は60歳であるが、希望すれば65歳までの再雇用制度がある。研修の受講や資格取得も支援し、働ける環境に配慮している。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人代表は人権教育について重要性を理解しており勉強会などで職員への啓発活動をしている。</p>	<p>法人による新任職員研修以降、内部研修の実施や外部研修への参加など、職員に対する人権教育・啓発活動に関する取り組みについては確認できなかった。</p>	<p>職員に対する人権教育・啓発活動について定期的に研修等を取り組んでいただき、介護の質の向上に努めること、併せて、研修記録等の保管を希望する。</p>
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体で計画的に職員教育の体制が出来ており、一人ひとりの経験や能力に応じた教育訓練が受けられる仕組みや日常的に学ぶ事が出来る機会が確保されている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県グループホーム協議会に加入しており地区研修会の参加を通して県内の他事業所との交流・連携を図り情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>安心した生活が送れるようサービスを導入する前に訪問し情報収集を行い不安や要望を伺い、出来るだけ思いを実現できるように関係づくりに努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>不安や要望を伺い家族の思いを理解し信頼関係を構築し安心して利用して頂けるように努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期導入時に必要としている支援を本人・ご家族と協議した上で見極め、他のサービスを含めた対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で生活全般の活動を共に行ない、職員が教えを請う場面もあり共に支え合う関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告やイベントへの参加を呼びかけ共に支えていく関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のスーパーへ買い物に行ったり友人が訪ねてくる事もあり馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	管理者・職員は利用者の馴染みの場所や人について把握している。馴染みの店への買い物や年賀状作成のサポートを行っている。デイサービス利用者との交流や母体法人が主催するイベントにおける他事業所の利用者との交流等も行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係を把握しレクリエーションや日々の談話を通じて孤立しないよう職員が配慮し支え合う関係作りに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もイベントへのお誘いをしたりご家族にも運営推進会議へ参加して頂くなど関係を断ち切らないように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向を日々の会話の中から把握し、困難な場合はご家族からもお話を伺いご本人の希望を実現できるよう努めている。	家族からの聞き取りや職員間での利用者の意向把握への検討等の蓄積で、思いや意思の把握が可能である。家族からの聞き取りで利用者が華道をたしなむ事を知り、声かけて利用者が事業所内の花を生ける様になった事例がある。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や日々の暮らしの中から、これまでの暮らしを把握するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で観察を行い心身状態や有する力の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議には本人・家族・職員でアイデアを出し合い、参加できない場合は面会時に話を伺い、より良く生活するための介護計画を作成している。モニタリングにて見直しを行いケアのあり方を評価している。	介護計画作成担当者が、本人・家族からの情報、主治医や訪問看護の医療情報、介護職員の日頃の気付き等の情報をもとに介護計画を作成している。3ヶ月ごと又は利用者の状態変化や状況に応じてモニタリングおよび評価表にてチェックを行い見直しを行なっている。見直しの都度、家族へ説明を行い、同意の署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の様子や気づいた事を記録し職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化などが有れば医療機関と連携・調整を行い柔軟に対応出来るよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや役場、法人内の事業所との交流により豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回かかりつけ医に受診し連携を図っている。また本人やご家族の希望に応じ協力医療機関との連絡調整も行い適切な医療を受けられるよう支援している。	基本的には、本人の馴染みの医師による継続的な医療が受けられるよう支援体制をとっているが、本人・家族の希望により、法人内のクリニックを希望されているケースが多くなっている。受診は家族の付添いを原則としているが、対応が出来ないときは職員が付添い支援を行うなど柔軟に対応している。また、定期的に主治医及び訪問看護の看護師との連携を図り、安心して健康が維持できるよう情報の交換を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師の訪問があり日常の状態や気になることを報告し助言を頂いたり適切な受診が受けられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	近隣の医療機関とは連携室を通じて法人開設以来関係作りをしており、入院時に治療や早期退院に向けた相談や情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始前に重度化や終末期の方針を説明しご家族の思いを伺っている。利用者の状況の変化に応じて本人・ご家族・かかりつけ医・職員で協議を行い合意を得た上で支援に取り組んでいる。	重度化や終末期については、明文化された事業所の指針があり、訪問看護と連携をとり対応するようになっている。また、介護職員も年間計画のなかで研修や勉強会を行うようにしている。家族に対しては、入居契約時や必要時に説明を行い、看取り介護についての同意を得ている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに職種会議や勉強会などで学ぶ機会を設け応急処置や初期対応の実践力を身につけるよう努めている。日常的には介護経験の長い職員が指導に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回ケアハウスと共に避難訓練を行っている。消防署や地元消防団との連携もあり法人内の他事業所の避難訓練にも参加し、いつでも実践できるようにしている。	消防計画や災害対策マニュアルについては、併設のケアハウスと一体となって計画されている。年2回の避難訓練も合同で実施され、消防署の協力も得られている。また、地域住民に呼びかけを行っている。非常用備品については、事業所内にある水・毛布・排泄ケア用品等を利用するように計画されている。非常食については法人全体として隣接の老健施設に備蓄されている。	非常用食料品についても、様々な状況を想定し、非常用備品として事業所内もしくは併設のケアハウス内に備蓄をしていただきたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねる事の無いように言葉かけや対応に配慮している。接遇や個人情報の取り扱いについて勉強会を実施して意識向上に努めている。	職員は、雇用時に管理者から高齢者の尊厳、人権意識を持つこと、プライバシーの保護等について話があるとともに、守秘義務について誓約書を交わすようしている。また、内部研修で学ぶ機会を設け、職員の意識向上を図るようにしている。日々の関わりについては管理者が点検し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のケアを通じ利用者の言葉・表情・行動から思いや意向を把握し感情の表出が難しい利用者においても真意を押し量り、また家族からの情報等をもとに自己決定できるよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは有るが起床や入浴など利用者の状態や気持ちに配慮しながら柔軟に対応している。レクリエーションや散歩なども画一的に行うのではなく利用者の気持ちやペースに合わせて対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意向を確認しながら好み等にも配慮し、その人らしい身だしなみやおしゃれの支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように利用者と職員が一緒に食事の準備やおやつ作りを行い、それぞれの力が活かせるよう支援している。	併設厨房にて献立作成及び調理が行われているが、食事の取り分けやベランダで栽培したナスなどを浅漬けにして添えるなどの準備を利用者と職員が行うようにしている。食事中は職員のひとりが同じ食事を、その他の職員は弁当や職員食を利用者と同じテーブルと一緒に摂っている。また、週に3回程度、おやつ作りがあり楽しみとなっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が立てており利用者に合わせたバランスの良い食事が提供できている。食事や水分の摂取量は記録を残し栄養管理に活かしている。摂取量の減少が見られる場合は声かけを行ったり体調に合わせて調理を変更し対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの状態に応じて必要な介助を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握する為、記録を残しそれぞれのパターンに合わせて声かけを行い尿意の訴えの無い方には排泄間隔に応じたトイレ誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄をして頂けるよう支援している。	日々の排泄チェック表を定期的集計し、利用者それぞれの排泄パターン表を作成している。基本的には、トイレでの排泄を行うことを方針とし、トイレ誘導を実施している。また、安易にオムツ使用しないように努め、夜間もポータブルトイレを使用するなど、排泄の自立支援に取り組んでいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を把握し少ない場合は摂取を促し適度な運動を取り入れ、それでも排便困難な場合は最小限の緩下剤を使用し便秘の予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に3回以上実施し本人のタイミングに合わせて柔軟に対応している。無理強いする事の無いよう声かけ・タイミング・誘導などに工夫をこらし入浴を楽しめるよう支援している。また、ケアハウスと連携を取り大浴場での入浴も実施している。	毎日、入浴ができる体制をとっている。利用者は概ね週3回以上入浴し、清潔を保たれている。毎日言葉かけを行い、気が向いたときに入浴へ誘導している。拒否される利用者には、言葉かけや時間帯を工夫して誘導し、入浴ができるよう努めている。また、月に数回、併設のケアハウスの眺めの良い大浴場で入浴を楽しむこともできる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調などに応じ休息をして頂いている。また、日中の活動を高めることで夜間の安眠が得られるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報提供書や薬の説明書をもとに薬の目的や副作用、用法や用量を理解し症状の変化を把握するよう努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や家族からの情報をもとに日々の張り合いや喜びが持てるよう茶道・華道・歌などの楽しみごとを持てるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って散歩や買い物など柔軟に対応できるよう努めている。博物館見学など普段行けない場所へも出かけられるよう支援している。	日常的な外出として、毎日敷地内を散歩している。ドライブでは、季節ごとに花見に行ったり、利用者の慣れ親しんだ場所や地域の図書館・博物館などに出かけるようにしている。また、家族への協力も得ながら、外食や買物の機会も必要に応じて支援を行い、気分転換が図れるよう努めている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた時などに預かり金の中から希望に応じて支払いが出来るよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から家族への電話を希望される事は少ないが家族からの電話でお話をして頂いたり行事のお誘い等を通じて、やり取りが出来るよう努めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は大きな窓があり明るく開放的で見晴らしもよく、食堂にはベランダで咲いた花を飾り季節感が感じられるようにしている。和室では利用者がのんびり過ごし談話を楽しむ場面もみられ居心地の良い空間となっている。	玄関から先はカーペットになっており、素足で過ごせる空間となっている。立地上、事業所からの眺めもよく、自然光が常に差し込み、明るい感じとなっている。ベランダ等では花や野菜などを栽培し、園芸が楽しめるようになっている。フロア内もソファや掘こたつ式の畳の空間があり、くつろげるようになっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファや畳の間や玄関のエントランスを活用し一人でのんびり過ごしたり気の合う方やご家族と談話したり、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から使い慣れた家具・仏壇・家族の写真など持ち込んで頂き居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には、利用者の馴染みのものが多く持ち込まれている。家族の写真や家具、仏壇等が持ち込まれ、本人も安心感を持って居心地の良い空間で過ごせるように配慮されている。利用者によっては、趣味を生かした作品を部屋いっぱいに飾られ、その方の居場所となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の表札・トイレの表示・風呂の表示など場所の確認が出来るようにしており、廊下には歩行の妨げになるような物は置かず迷わず安全に過ごせるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない